

体育・保健体育科学習指導研究委員会

研究のまとめ

一 テーマ

「心と体に関心をもって、子どもたちが自ら学びを深める体育・保健体育授業」

二 テーマ設定の理由

現在小学校における体育では、「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」が求められている。子どもたちが心と体を一体として捉えるためには保健分野の学習を通して、自分たちの体や運動することが心に与える影響についても興味をもつことが大切であると考え、本研究テーマを設定した。

三 研究の過程

- ・第1回 5月 2日（火）（於：教育会館）
・係の選出 ・研究テーマ検討 ・研究内容の立案 ・年間計画の作成
- ・第2回 5月16日（火）（zoom オンライン）
・研究テーマ検討 ・研究内容の立案 ・年間計画の作成
- ・第3回 6月21日（水）（於：塩川小学校）
・授業参観 ・授業研究会
- ・第4回 7月31日（月）（於：塩川小学校）
・教育課程研究協議会授業づくり，指導案検討
- ・第5回 9月 6日（水）（於：塩川小学校）
・教育課程研究協議会
「塩川小学校の研究授業研究会（模擬授業） 分科会司会進行」
- ・第6回 9月15日（金）（於：塩川小学校）
・教育課程研究協議会授業（本番）
- ・第7回 11月27日（月）（於：教育会館）
・研究のまとめ作成について
・研究発表について
・本年度の反省と次年度の要望について

・第8回 1月30日(火)(於:教育会館)

・研究発表会

四 研究の内容

(1) 塩川小学校の授業研究会に参加し、教材研究や授業研究に関わり、学び合う。

(2) 委員各校の実践例を持ち寄り、情報交換をしたり、会員に発信したりする。

教育課程授業校の塩川小学校の研究グループとともに授業づくりに参加し、研究を行うこととした。研究授業に向けた授業を参観し、委員それぞれの視点で授業分析を実施し、その分析について協議を行った。詳しい研究内容は、以下のとおりである。

1 単元名・学年 体の成長とわたし・4学年

2 単元の目標 ※()内の文言は、小学校学習指導要領体育編の指導事項を指す

(1) 知識

年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようにする。(G(2)ア(ア)~(ウ))

(2) 思考力、判断力、表現力等

体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができるようにする。(G(2)イ)

(3) 学びに向かう力、人間性等

体の発育・発達について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 体は、年齢に伴って変化することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(G(2)ア(ア))	①体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。(G(2)イ)	① 体の発育・発達に関する課題の解決に向けて、教科書や資料などを基に調べたり、考えたことを友だちと共有したり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。
② 体の発育・発達には個人差があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(G(2)ア(ア))	②体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことを学習カードなどに書いたり、発言したりして友だちに伝えている。(G(2)イ)	
③ 体は、思春期になると、次第に大人の体に近づき、体つきが変わっていくことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(G(2)ア(イ))		
④ 体は、思春期になると、初経、精通などが起こったりすることや、異性への関心が芽生えたりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(G(2)ア(イ))		
⑤ 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(G(2)ア(ウ))		

4 単元における、本時の工夫 ※授業研究会における討議の柱になります

(1) 授業の導入部において、小学1年生と大人のシルエットや写真を比較した後に小学6年生の写真を提示したり、先生方のインタビューを提示したりすることによって、一人ひとりの子どもが課題(「思春期には、どのような体の変化があらわれるのでしょうか」)に対する必要感をもち、自分の思いや考えを大切にすることができるようになる。

(2) 「Ⅱ 4 (1)」の工夫がなされた授業において、先生方へのインタビューを参考にしながら、思春期にあらわれる体の変化について班や全体で考え、共有する活動を授業の展開部に位置付けたり、「これから思春期に入っていく自分とみんなへのメッセージ」を書くように促し、それを全体で共有する活動を授業の終末部に位置付けたりすることによって、友だちと共に学び合い、体は、思春期になると、次第に大人の体に近づき、体つきが変わっていくことを理解することができるようになる。

5 教材化

(1) 単元に寄せて

本クラスは、自分の考えたことや思いを素直に表現し合えるクラスである。一方で、子どもの姿からは、性や異性に関する関心の高まりはあまり見られないため、本単元における学習内容に対して、互いに気恥ずかしさを抱え、自分の考えたことや思いを素直に表現できなくなることが予想される。授業者としては、このような予想される姿を子どもが乗り越え、性に触れる学習内容であっても、自分の考えたことや思いを素直に表現し合ってほしいと考えている。そして、学習を通して、小学4年生という年代は思春期の入り口に立っていることを自覚し、自分事と捉えながら体の発育・発達に対する理解を深めてほしいと願っている。また、そのような体の発育・発達には個人差があることへの理解も深め、自己や友だちの今、さらには、今後の成長を肯定的に受け止め合い、今後の学校生活をさらによりよくしていくために力を合わせてほしいと願っている。

(2) 本時に寄せて

「Ⅱ 5 (1)」に挙げた子どもの姿を目指す上で、本時、二つの工夫を行う。

一つ目は、本時の導入部における工夫である。そこで、授業者は、授業冒頭において、小学1年生と大人のシルエットを順に提示し、「どちらが男子でどちらが女子か」と問う。これを通して子どもは、男女の違いが分かりにくい小学1年生に対して、それが分かりやすいのが大人であることや、大人の男女における体つきの違いを捉えていく。一方で、ここにおける子どもは、自身の年代がどちらにも該当しないことから、客観的な捉えに留まりやすいと考える。そこで、授業者は、二つの年代をつなぐ小学6年生の写真を提示し、体つきの変化は近い未来から起こり始めることや、それを思春期と呼ぶことを押さえる。その後、授業者は、子どもたちと学校生活を共にする先生方を取ったインタビューを提示する。これを通して子どもは、インタビュー内容への興味や、自己のこれからの発育・発達へのイメージをもち始めるだろう。このような子どもの姿を、「Ⅱ 4 (1)」に示した姿と考える。

二つ目は、本時の展開部や終末部における工夫である。そこで、授業者は、先生方へのインタビューを参考にしながら、思春期にあらわれる体の変化について班や全体で考え、共有する活動を設ける。これを通して子どもは、思春期における体の変化を知識として身につけるだけでなく、体に変化していくことに対する期待や不安を友だちと共有できると考える。その後、授業者は終末部において、「これから思春期に入っていく自分とみんなへのメッセージ」を書くように促し、それを全体で共有する活動を設ける。これにより、子どもは、体に変化していく時に起こる個人差に対して、肯定的に受け止め、それをメッセージにして表現し、共有できると考える。このような子どもの姿を、「Ⅱ 4 (2)」に示した姿と考える。

6 単元の展開

※時：時間、知：知識及び技能、思：思考・判断・表現、主：主体的に学習に取り組む態度

※第1時(太枠部分)：事前授業 第3時(太枠部分)：本時

※◇の文言：ねらい

時	活動	・予想される子どもの反応	○教師の指導・支援	評価
1	導入 1 授業者の娘(小4)の服の大きさの変化や身長伸びの変化のグラフを見る。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> 娘さんのように、僕たちも大きくなってきたんだな。 私たちは、だんだんに大きくなってきたんだな。 1年ごとで伸びる長さが違っていておもしろい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業者娘のTシャツを4サイズ(80、100、120、140)提示する。 ○授業者娘の3年間の身長の伸びの表とグラフを提示し、気づいたことを発表するように 	知主 ①
	◇体は、年齢に伴って変化することを理解する。		学習問題：私たちの体は、どのように成長してきたのでしょうか。	
	展開 2 グラフ作成を通して気づいたことを班で共有する。(12分)	<ul style="list-style-type: none"> 私は、3年生から4年生が一番伸びた。4年間でこんなに伸びたのは知らなかった。 みんなはいつが一番伸びたのか知りたいな。 隣の○○ちゃんは、2年生から3年生の時が、一番伸びたんだな。一人ひとり伸びた長さが違って面白いな。 共有したことで、伸びる時期やその長さは、やっぱり人によって違うということが分かった。違いがあって当たり前だし、違いがあることを分かるのは大切だ。 こうやって棒グラフを書いたり、友だちと比べたりしたことで、自分もけっこう成長していたことが分かってうれしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「健康の記録」を配る。 ○伸びた長さの競争ではないことを伝える。 ○気づきを記入している子どもには、自分の身長の伸びに対する気づきと、互いの伸びとの比較による気づきのどちらであるかと問い、自分の気づきに対する自覚を高める。 ○クラス全体で共有をする上で、一人ひとりの伸びを認め、自己肯定感をもてるようにする。 ○児童の発言にある、「一人ひとりが大きくなっている」ことや、その違いに対して「面白さ」を感じていることを授業者が肯定的に受け止めることで、本時のまとめにつなげる。 	
	3 クラス全体で、気づいたことを共有し合う。(18分)	<ul style="list-style-type: none"> 今後の自分がどうやって成長していくのか知りたい友だちがいた。次の授業で、さらに調べたい。 	○「分かったこと」と「さらに知りたいこと」を観点に本時を振り返り、クラス全体で共有する。	
終末 4 本時の振り返りをする。(5分)				
2	◇体の発育・発達には個人差があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 身長が一番伸びる時期は、人によって違うんだな。 女子は早い時期に伸びやすく、男子は遅い時期に伸びやすいんだな。でも、そこにも個人差があるのは共通点だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較時は、相違点に加えて、共通点も探すように促す。 ○発育・発達には個人差があることを捉えていたり、前時の学びとの共通点を捉えていたりする子どもに発言を促し、全体で押さえる。 	知 ②
3 (本時)	◇体は、思春期になると、次第に大人の体に近づき、体つきが変わっていくことを理解する。			知思 ③①
	導入 1 小学1年生と大人のシルエットや写真を比較した後、小学6年生の写真を見る。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 1年生のシルエットには、男女の違いはあまりない。 大人のシルエットの方が、男女の違いが分かりやすい。 男の人はがっちりしていて、女の人は丸みのある感じだな。 6年生になると、今の僕達より少し男女の違いが出てくるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生と大人の体のシルエットを順に見せ、「どちらが男子でどちらが女子か。」と問う。その後、本物の写真を見せながら、男女の体つきの違いを児童の発言を通して押さえる。 ○「大人の体つきへの変化が起こり始めるのはいつごろか。」と問 	

	2 先生方のインタビューの提示から、本時の見通しをもつ。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期という言葉があるんだな。 ・体の変化が出てくるのは、思春期の初めの頃で、中・高学年くらいか始まるのか。小学4年生の私たちも思春期に入り始めているのか。知らなかった。 ・身近な人たちだけど、こういう話題を一緒に話したことはない。どんな変化があったのだろう。 ・インタビューから、どんな風に体つきが変わっていくか知りたい。 	<p>い、6年生の資料を提示する。その後、6年生の資料に体つきの変化が表れ始めていることを指摘する子どもの発言から、その時期を「思春期」と呼ぶことを押さえる。</p> <p>○先生方にインタビューしたことを伝える。その後、インタビュー内容や体の変化について関心をもつ子どもの反応から、学習問題を設定する。</p>		
展開	3 先生方へのインタビューを参考にしながら、思春期にあられる体つき以外の変化について班で考え合う。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期って、男女によって色々な変化があるし、その変化が出る時期は違うみたいだ。 ・男子はひげが生えたり声が変わったりもするんだな。 ・男子や女子のそれぞれの特有の変化と男女共通の変化があるんだな。 	<p>○先生方の思春期の頃のインタビューを提示する。</p> <p>○教科書p 33にある資料「体にあられるそのほかの変化」を基に作成した、()の中を埋めるワークシートを配り、班で話し合いながら完成させるように促す。</p>		
	4 班で共有したことを、全体で共有する。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の体って、だいぶ大人の体つきに近づいていくんだな。 ・身長と同じように、体の発達にも個人差があるんだな。僕はいつ思春期が始まるのかちょっと楽しみだな。 ・人と比べなくていいんだな。それに、自分や友だちの発達を喜べるようになりたいな。 	<p>○全体で共有し、思春期には、体つきの他にも変声や性器の周りの発毛などいろいろな変化が現れることを確認する。また、個人差を指摘する子どもの発言から、変化の時期や変化の仕方には個人差があることを押さえる。</p> <p>○体の変化に対する期待や不安の声も全体で共有する。</p>		
終末	5 「これから思春期に入っていく自分とみんなへのメッセージ」を観点にして、本時の学びを振り返る。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の入り口にいる私たちは、段々と男性や女性の体つきになっていく。そうやって子どもから大人に変わっていくことや、それが違って当たり前であることを皆で大事にしようね。 ・思春期というと、恋というイメージがあった。体以外にもどんな変化が出てくるのかを知りたい。 	<p>○観点を基に振り返りを学習カードに書くように促す。その後、全体で共有する場を設ける。</p> <p>体は、思春期になると、次第に大人の体に近づき、体つきが変わっていくことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ※学習カードや発言から</p>		
4	◇体は、思春期になると、初経、精通などが起こったりすることや、異性への関心が芽生えたりすることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期に起こる変化について調べ、共有する。 ・思春期における変化への悩みにアドバイスを送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初経や精通が起こるけど、時期は個人差があるんだな。異性への興味も出てくるけど、必ず異性というわけではないし、その時期も違うんだ。 ・声の変化は、病気ではないから、安心していいよ。むしろ、大きくなっている証拠だから、喜んでいいことだよ。 	<p>○初経や精通の経験は早い人では当該学年からあること、異性への関心については、必ずしも異性に向けられるものではないことを押さえる。</p> <p>○同じ年代の友だちがもつ悩みであることを指摘することで、相手意識をもったアドバイスを促す。</p>	知思 ④②
5	◇体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく成長するための生活の在り方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で学習した十分な睡眠や食事は、やっぱり大切なことなんだな。 ・体の成長は恥ずかしいことで 	<p>○3年時の学習を想起させながら、成長に必要なことを考える場を設ける。</p> <p>○よりよい発育・発達のため</p>	知 ⑤

<ul style="list-style-type: none"> 単元の学びを振り返る。 	<p>はなく、大切なことで、うれしいことだ。自分の成長を喜べるようになりたい。</p>	<p>に、大切にしたい学びと、さらに知りたいことを記入するように促す。</p>	
---	---	---	--

6 各委員の授業分析

(1) シルエットを使用したこと

- 1年生のときの友達の身長や、お父さんお母さんなど身近な人のことから考え、自分たちに関連付けて学習する姿があった。男女の違いや理由まで考えている様子から、子どもたちが興味をもって学習を行っていた。
- シルエットクイズは子どもたちに興味・関心をもたせる上で非常に有効な手立てであった。子どもたちが体の変化に着目するきっかけとなった。

(2) 先生方へのインタビューを提示したこと

- 紙ベースのインタビュー記事も良かったが、直接、思春期についての経験を数人から聞くことができたことが良かった。
- 身近な大人へのインタビュー資料があったことでワークシートへの取り組みがよかった。また、思春期に対する経験が書かれていたことが、子どもたちが「思春期が楽しみ。」と感じるきっかけとなっていた。
- 「個人差」をキーワードに先生方のインタビューを聞く姿は、とても真剣で、子どもたちの意欲を感じた。子どもたちが自分やみんなへのメッセージを考える場面では、本時の学習を通して思春期に対する不安や楽しみを感じる姿が見られ、主体的に学習に取り組んだ様子が伺えた。
- 自分へのメッセージで「みんないつかはやる、がんばろう。」「これから体とか変わっていくから心配しないでね」と記述していた。また「そんなに意識とか考えないで、他のことを考えて忘れよう」「みんなに伝えたいことは、恥ずかしくても仲間がいるよ。」といったこれからの体の変化を安心して受け止める内容や、個々の差があっても心配しすぎないことなど、これからの変化に関する前向きな内容を学んだことから振り返っていた。

五 研究のまとめと課題

(1) まとめ

- これまで運動分野の授業について扱うことが多かったが、保健分野について教材研究・授業参観できたことが非常に良かった。
- 教育課程当日、小中学校の先生方で意見交換を行った。その中で、小学校で教えていることでも中学校で改めて教えていることや、中学校で教えなければならないことなど、改めて確認することができた。小中学校での系統的な学習指導を確認するよい機会となった。
- 保健の学習において、導入における資料の提示が非常に重要であることが改めて分かった。子どもたちが興味をもって学習に向かうことができるような資料内容の工夫や提示の仕方を引き続き研究し、集積していけると良い。

(2) 課題

- ・保健分野の学習，特に性に関わる単元は健康教育と重なる部分が多く，保健の学習として学ぶべき知識や内容を精査して授業づくりを行うことが重要だと感じた。
- ・コロナ禍が明けたが，数年間活動が思うように行えなかった影響があり，以前のように活動が行えなかった。委員が実践を持ち寄ることができず，塩川小学校の研究グループの協力が非常にありがたかった。また，学習指導委員会としてどのように関わっていくことが良いのかは課題である。